



浜松城跡現地説明会資料

2010年5月30日

浜松市文化財課

■浜松城について

浜松城は三方原台地の東縁にあたる段丘上を利用した平山城で、中世には引馬城と呼ばれていた。中世の引馬城の位置は「古城」と伝えられ、現在は浜松城の北東側にある東照宮にその名残を留めている。

元亀元年（1570）、徳川家康は弱体化した今川領地内に進攻し、この地に前線基地を築いた。徳川家康が在城した17年間によって、現在の浜松城の位置にまで軍事施設が拡張されたとみられる。

天正18年（1590）、豊臣秀吉が天下統一を成し遂げると、徳川家康は関東に移封され、浜松城は豊臣系の大名である堀尾吉晴が治めた。最新の築城技術をもった堀尾氏は、浜松城に石垣を築き、瓦葺きの天守閣を建築した。

慶長5年（1600）、関ヶ原の合戦で徳川家康が勝利した後、浜松城は徳川譜代の城として豊臣色が払拭された。天守閣も17世紀には消滅している。江戸時代には、三の丸が整備され、東海道沿いの城下町も形成された。

なお、現在みられる天守閣は昭和33年（1958）に再建されたものである。



発掘調査位置

2010年は天守門跡の上部構造の確認を目的に調査を実施した。

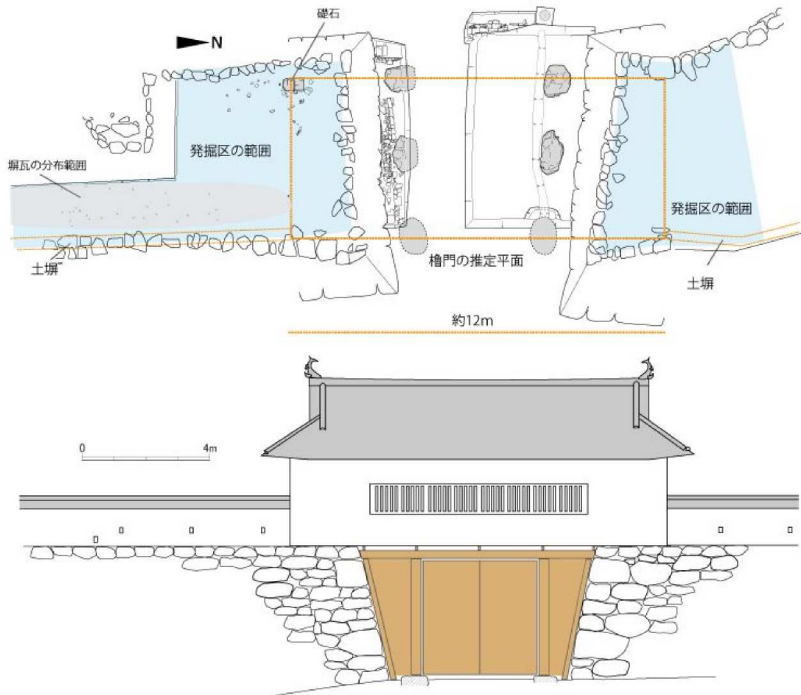
年代	地域の支配者 (城主)	できごと
15～16世紀	今川 (飯尾)	駿河今川支配下の支城として引馬城(古城)を整備
元亀元年 1570	徳川	桶狭間の戦い(1560) 徳川家康、引馬城入城
		本丸、天守曲輪付近への軍事施設拡張(詳細不明)
天正18年 1590	豊臣 (堀尾)	三方原の戦い(1572) 長篠の戦い(1575)
		徳川・武田攻防戦
慶長5年 1600	徳川 (譜代)	小田原の陣(徳川家康、関東へ移封)
		天守・瓦葺建物(天守門)の建設、天守曲輪石垣の構築
明治元年 1868	徳川 (譜代)	関ヶ原の戦い 徳川家康、将軍となり、江戸幕府を開く(1603) 大阪夏の陣、豊臣氏滅ぶ(1615)
		徳川譜の城として再整備 近世城下町の形成、二の丸の拡張
昭和20年 1945	徳川 (譜代)	明治維新
昭和25年 1950		第二次世界大戦終結
昭和33年 1958		浜松城公園開設 天守曲輪、本丸の一部が公園整備
昭和34年 1959		復興天守(鉄筋コンクリート造)の建築 天守曲輪、本丸の一部を浜松市史跡に指定

■天守門の調査成果

石垣の上部から礎石や瓦が検出できたことから、天守門は二階建て構造の櫓門（やぐらもん）であることが確定できた。二階部分の櫓の大きさは、検出した礎石と出土した瓦の位置関係から想定して、幅 12m 程度の規模であると考えられる。櫓の両脇からは塀に使用する塀瓦が集中的に出土しており、天守門に接続して土塀がめぐっていたことも併せて確認できた。

櫓門に葺かれた瓦の特徴から、天守門は安土桃山時代（16 世紀末）に建てられ、その後も江戸時代を通じて改修が繰り返されたと推定できる。

天守門は城内でも一際大きな建物であり、天守が無くなった後は、浜松城の象徴的な存在として維持されたとみられる。



天守門跡の検出遺構と推定復原図



櫓門の礎石、瓦検出状況



軒丸、軒平瓦

櫓門の屋根に葺かれていたもの



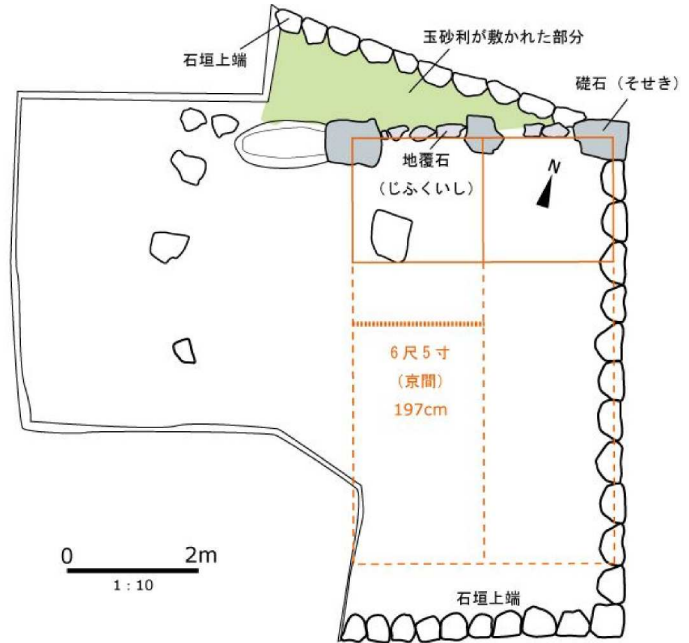
塀瓦

塀の屋根に葺かれていたもの

■富士見櫓の調査成果

富士見櫓では、京間（6尺5寸=197cm）を用いる建物の礎石を検出した。礎石が確認できたのは北側の3石分で、礎石間には地覆石（じふくいし）がみられる。通常の櫓は土蔵造りであるが、検出した建物基礎の特徴から、富士見櫓は邸宅風の建物であったと推定できる。また、建物北側の平坦面には、玉砂利が敷かれていたことも明らかになった。富士見櫓は城郭建築の中では異質で、風雅な建物であったとみられる。この建物を使って、会合や茶の湯などが催されたと考えられるだろう。

出土遺物には、家紋瓦（桔梗紋：17世紀、高力氏もしくは太田氏）、天目茶碗などがある。



規則的に並ぶ礎石と地覆石



玉砂利の検出状況





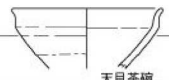


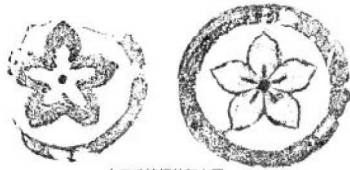

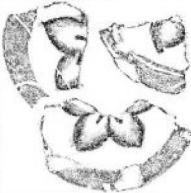


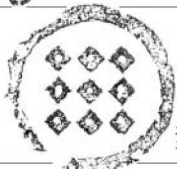


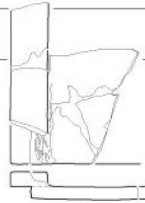


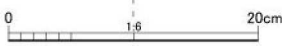



天目茶碗



家紋瓦
(桔梗紋)

歴代城主と出土品の年代

西暦	城主	地域の支配者	関連出土品	2009年出土品	
1565	飯尾賢連・乗連・連竜	今川氏	 <p>かわらけ (灯明皿) 瀬戸美濃天目茶碗</p>	天守門跡	富士見櫓跡
1570	徳川家康		 <p>かわらけ (灯明皿) 瀬戸美濃折皿</p>	かわらけ	
1590	(城代) 菅沼定政	豊臣氏	 <p>堀尾期軒平瓦</p>	 <p>堀尾期軒平瓦</p>	 <p>天目茶碗</p>
1600	堀尾吉春・忠氏				
1601	松平忠頼	徳川氏 (将軍家)			
1609	水野重仲				
1619	高力忠房				
1638	松平乗寿				
1644	太田資宗・資次		 <p>太田氏桔梗紋軒丸瓦</p>	 <p>桔梗紋軒丸瓦</p>	
1678	青山宗俊・忠雄・忠重		 <p>青山氏無字銭紋軒丸瓦</p>		 <p>桔梗紋軒丸瓦</p>
1700	本庄(松平) 資俊・資訓		 <p>本庄(松平)氏九目結紋軒丸瓦</p>	 <p>九目結紋軒丸瓦</p>	
1702					
1729	松平信祝・信復				
1749	松平(本庄) 資訓・資昌		 <p>松平(本庄)氏九目結紋軒丸瓦(縮尺1/12)</p>		 <p>目板瓦 (縮尺不同)</p>
1758					
1800	井上正経・正定・正甫	 <p>井上氏井桁紋軒丸瓦</p>			
1817	水野忠邦・忠精	 <p>水野氏沢瀉紋軒平瓦(縮尺不同) 沢瀉紋鬼瓦の破片</p>			
1845					
1868	井上正春・正直	 <p>井上氏井桁紋軒丸瓦(縮尺1/12)</p>			